

龍の寺社を訪ねて～宮彫りの魅力



にしかのう
西叶神社
(横須賀市)

文：神奈川県探龍倶楽部
代表 上田 康史

江戸時代に花開いた宮彫り。宮大工の彫師の繊細な技術やアート性を文化財・芸術作品として周知・保護する活動を行っている。

「宮彫り」という言葉をご存じでしょうか？
「神社仏閣にある彫り物」と聞けば、「ああ～見たことがある」という方もいらっしゃるでしょう。「宮彫り」は、日本の知られざる文化芸術といっても過言ではありません。

長い間、宮彫りの存在は仏像の陰に隠れていましたが、近年、海外からも脚光を浴びています。今後“MIYABORI”という言葉が世界の共通語として、“UKIYO”と同じように、世界を席卷するのはそう遠くないはずです。

最初に紹介するのは、浦賀の西叶神社。西叶神社の社殿は、天保八年(1837)に焼け、天保十三年(1842)に再建されました。この時「宮彫り」を手掛けたのが、安房の国の名工「後藤利兵衛義光」です。彼が20代の



向拝格天井の彫り物「龍二十八態」

血氣盛んな時、約6年をかけて230以上の彫り物を残しました。特に向拝の迫力ある「龍」と、向拝格天井の「二十八態の



棟柱を担ぐ「力神」の彫り物

龍」、そして拝殿内の格天井には74枚もの「花鳥草木」の浮彫り彫刻群(一般には未公開)は圧巻です。木目を巧みに生かした美しさ、作品の緻密さ、芸術性に、必ず心打たれ圧倒されることでしょう。その他、海老虹梁の龍、木鼻の象・獅子の彫り物など、数え上げたらきりがありません。また、社殿の外壁に、本殿を支える「力神」の彫り物を探すのも一興です。

この名工が残した作品は、そこに行かなければ見られません。是非とも、足を運んでその目で確かめてください。



総檜造の西叶神社社殿



社殿向拝の彫り物「三匹の子挽龍」

西叶神社
横須賀市西浦賀1-1-13 ☎046(841)0179